

白藍塾オリジナル

2013入試小論文分析&解答のヒント

2013年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志・大場秀浩

●慶応・環境情報学部

昨年度と同じく、自分のアイデアをプレゼンテーションする問題。ただ、昨年度に比べると、テーマそのものはややつかみどころがないように感じられるかもしれない。

まず「身体知」とは何かを理解する必要があるが、設問文の「様々な知とその獲得」という部分を読むだけでも、大まかなイメージはつかめるはず。要は、頭で理解する知ではなく、体で覚える知のことだ。資料では伝統芸能やピアノ、スポーツ、臨床技術などについて述べられているが、ピアノなどの習い事やスポーツであれば、受験生にもイメージしやすいかもしれない。例としては、設問文にある自転車の乗り方が最もわかりやすいはずだ。

今回は資料の数がとくに多いが、いずれも設問について考える際の参考資料にすぎないので、それほどいねいに読む必要はない。資料1～3は、宮大工や伝統芸能の世界に残る徒弟制について、資料4～7は、身体知に対する科学的アプローチについて、それぞれ説明している。資料8・9は、あえて読む必要もないだろう。

3つの設問は、一続きの問題として捉えるほうが考えやすい。

図1は、「あなたがこれまでに学んだ身体知」とあるが、問2でも答えやすそうな例を考えるほうがよい。どうしてもスポーツや習い事に例が偏ってしまうと思うが、箸の使い方やパソコンの使い方、あるいは歩き方や言語の習得など、様々な例が考えられるはずだ。

「その知を獲得する別の方法」というのは、問2の「問1で述べたあなた自身の身体知を、大きく向上させる新しい方法」とのつながりを意識して考えるほうがよいので、ここではあまりくわしく説明する必要はないだろう。

問2では、「科学技術にとらわれる必要はない」とあるが、「自由な発想」と言われてもなかなか思いつけるものではないので、やはり資料4～6を参考に、身体知を科学技術によって獲得する方法を考えるのが最も書きやすい。ここはできるだけ具体的に説明する。

問3は、おなじみのプレゼンテーション問題。科目名を考えさせるのはユニークだが、ここはそれほど重要ではないので、「スポーツと身体」といった単純なもので十分。履修内

容は、問2で考えた方法を、誰にでも教えられる応用可能なものに一般化すればよい。また、「その科目を履修することで伸ばせる身体知」というのは、ある程度学問的・社会的意義のあるものであれば、何でもよい。

むしろ、重要なのは、「学生、教員の学び方と教え方」の部分。もちろん、資料1～3にあるような徒弟制を大学で実践するのは不可能だが、単に「教員が学生に何かを教える」というスタイルではなく、教員と学生の共同作業を通して学生が実践的に知識や能力を身につけていくようなあり方を考えるべきだろう。

第一部で科目名をずばり示し、第二部で履修内容を、第三部で「学生、教員の学び方と教え方」などをくわしく説明するとよい。「想定する学生数」「評価方法」その他は、最後の段落で簡単にまとめて示すとよいはずだ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>